

世帯台帳

| | |
|-------------|------------------|
| 居住地 H 区 乙 町 | 世帯主 G. T. |
| 本 籍 同 上 | 居住の始期 昭和24.12.28 |

同居して生計をとるもの

G. T. 世帯主 T 9.9.15生 34才 旧制工業卒 胃潰瘍 無職
 K. T. 妻 T 10.1.26 34 旧制専門卒 健
 Y. T. 長 男 S 28.7.9 2 //

同居して生計を要にする親族

K. T. 弟 26 高等無線卒 健 会社員 1,000円援助

世帯主又は家族の直系血族、兄弟姉妹

R. T. 兄 41 家族 5人 M区H町 会社員 2,000円援助
 T. T. 弟 30 独 身 // 同居 // 3,000円援助
 S. M. 弟 32 家族 3人 S県S郡S町 //
 K. T. 妻の父 63 T県N郡T町 計理士
 T. T. 妻の妹 23 独 身 // 同居父の世話 家事

資産の状況

土地 宅地 24 坪 | ベビー箆筒 1 茶箆筒 1
 家屋 自宅 9.5坪 | 寝 具 2組 四球スーパー 1

(他に日用雑貨、炊事用具等)

負債の状況

兄弟、及び妻の父から借金約3万円程度であるが、扶養義務関係にあることよりして負債として取上ぐべきものでない。
 Y医師に治療費及び輸血料等約15,000円位

住居の状況

自家、木造、セメント瓦、平屋、水道有
 畳数 自世帯使用4半 3畳 他世帯使用4半 (K. T. 使用)

記 実 現
録 習 場

医療単給によるケース

四 年 奥 井 郷 子

三〇年七月一三日妻K子來所 相對して坐しているK子は一見四〇才位、生活の疲れといったものが感じられる。福祉事務所へ来たのは初めてという事で終始慇懃さの中に必死なものがみられた。用意が整つた処で質問を始める。「何の御相談ですか」「お恥しい事ですが主人が病氣になりましたので」「いいえ少しも恥しい事ではないのですよ。どなたでもお困りの方は気軽に相談にいらして下さればよいのですよ。御主人の病氣は」「胃潰瘍でございます」「殆病なさつたのは何日ですか」「先月の二四日でございます。主人は一年半位前に勤めて居りました会社で閉鎖されて失業し以来定職なく、それでは生活に困りますので知人の室内裝飾の手伝いをしています。ところが勤務先で吐血致しまして、しばらくはそこを動かす事が出来ず、現在は家で寝ていますが絶対安静で入院も出来ないう仕末でございます」「現在収入は」「ぜんぜんありません」「これ迄はどの位あつたのですか」「主人の収入が約一〇、〇〇〇円、それに私の内職(和裁)によつて少し」「それでは現在どうやつて生活していますか」「主人の収入が途絶え、私も子供の世

話と看病で内職をする事が出来ず、主人の兄弟と私の父からの仕送りで生活していますが医療費の支払いに困つています」「医療費はこれまでにどの位使いましたか」「輸血代も含めて全部で一五、〇〇〇円位です。この頃ではリンドルをうつたりしてありますので一日に一、三〇〇〜一、四〇〇円かかります。衣類を売つたりして医療費に充てて来ましたが売るものもなくなりましたので」「よくわかりました」

家族、親戚、住宅については世帯台帳参照、中略、初診券(Y医院宛)申請書及び関係書類用紙を渡し「これを(初診券)今かつているお医者様に渡して書いてもらつて下さい。こちらではそれによつて医療券を出しますから、それまでは支払いを待つてもらつて下さい」「お医者様にはずつとかかつていてよろしいでしょうか」「よろしいですよ、なるべく早く書いてもらつて持つて来て下さい。支払いについて何かいわれたら今生活保護法による医療扶助を申請中だからといって待つてもらつて下さい。近い内に担当員がお宅へ調査に伺いますから」「どうもありがとうございます。病人が氣になりますのでこれで失礼し

ます」書類をカゴに入れるとあたふたと帰つて行つた。担当員に面接記録を廻してお

K子再來所 「私は生活保護法の指定医ではないので要求には応じかねる。つては今迄の医療費一六、〇〇〇円の請求書を同封するからよろしく願いたい」というY医師の手紙を持つて汗だくになつてとび込んで来た。一応落着かせて椅子をすすめる。面接員は担当員、主査と相談し処置を決定する。「お待たせ致しました。今の世の中には指定医でない医者は数少く、又指定医でないと思者の何割かを失う位ですから。その一つに御主人がかかれた訳になつてもらうのが、一番なのですが間に合いませんので生活保護法の指定医に変更して下さい」「支払いはどうしたらよいでしょう」「支払いは延期してもらつて下さい」「Y医院宛にした初診券をM医院宛に訂正交付する。」「暑い処を御苦勞様でした」「失礼します」後姿を見送りながら健康保険がない故の苦勞を氣の毒に思つた。

三十年七月十三日家庭訪問 主人は対話困難でK子に質問する。

△居住環境▽資産活用条件としての賃貸しは構造の上から困難である。路地を隔ててアパートが二棟あり、病人の絶対安静には不向き△生活歴▽主人はH工業卒業後工作機械商KKR商店に就職、昭和二十一年春会社解散により退職、直後同僚と共にN装飾KKに就職した。

K千とは昭和二十五年十月結婚、比較的恵まれた生活環境にあり何一つ不自由なかつた。知人から手腕をかわれて新設のF装飾KKに昭和二十六年暮に転職、当初は順調であつたが次第に社会変動に影響され失業不振となり昨年末には会社が解散し失業、以来知人の室内装飾を手伝い生活を維持する事が出来た。ところが六月二十四日突然吐血し収入の道は絶たれた。附近のY医院に受診胃潰瘍との診断で絶対安静を申渡された。僅かな貯えもなく、衣類その他も売却処分し、兄弟から一〇、〇〇〇円位、妻の父から五、〇〇〇円位の援助を受けた。縁故者の援助も多額にのぼる金銭を長期に仕送りもならず、医療費負担は困難となつた。△扶養義務者の状況▽△資産状況▽△負債の状況▽は世帯台帳参照。△近隣の風評▽至つて良好で現状に

対しては同情の目が集まつている。
三十年七月十四日扶養義務履行方交渉文書発送。

R・T T・T S・M K・T K・T宛
三十年七月十五日M医院院長より

往診の結果衰弱甚しく、食餌療法が当面の問題で妻女が幼児を抱えての事で家庭では到底療養困難であるから入院を要するが、現在病人を動かす事は危険なので一兩日様子を見ろとの連絡あり。

三十年七月十八日M医院より
日往診の結果移動可能と思つたので看護婦を向け担架で入院させたとの連絡あり。病院に患者を見舞う。Gは長話は困難との訴えでばつりばつりとく。胃潰瘍は過去数年來警戒していたが失職と職不安定のまま治療を怠つていた為今日の最悪状態になつてしまつた。目下の処、生活費は兄弟からの援助があるので医療費について何分の善処をたのむと病床に男泣き。妻も側から夫の病状の軽快を待つて極力内職に努力する旨を申しそえる。病院より入院証明書を受取る。

R・T T・T K・Tより扶養履行届

郵送着。
援助申立、R・T T・T 三、〇〇〇円八月より履行。

K・T 一、〇〇〇円七月より履行。
三十年七月二十日M医院より
以来より入院迄の外來医療費精算額報告あり。

合計 一三〇点 一、六二五円 自七月十三日至七月十五日。

三十年七月二十五日 以上本ケース世帯主の発病、稼働収入断絶により扶養義務者による援助に頼る生活現状に医療費支払困難であり、早急に保護の必要を認められるので次により保護適用したい。三十年七月十三日より、生活基準額六、〇七九円収入(仕送り)認定額六、〇〇〇円差引不足額七九円よつて医療扶助単給(外)M医院、全額扶助自七月十三日、至七月十五日、次いで入院により、生活基準額四、一二九円収入認定額六、〇〇〇円差引超過額一、八七一円よつて七月十六日より、医療扶助単給(入)M医院、一部負担、法残額扶助、自七月十六日、至七月三十一日と変更、七月分一部負担日割計算九〇七円。

指導方針、差当つては、世帯主の病状輕

快を待ち内職指導し収入増加を図り、なし得る限り医療費一部負担を増額する様指導したい。

●決裁完了審判受理。

三十年十月三日M医院よりJ.C. Gが去る九月三十日退院、尙当分外来治療を要するとの連絡あり。

三十年十月五日M医院に出張 Gの外來治療による概算書記人を依頼する。

家庭訪問 Gは床の上に坐つていた。朝の内子供の手を引いて家の廻りを散歩する様になつた。遠出は無理でM医院に通院するのがやつとである。妻も内職を始める事が出来一、〇〇〇円程度収入あり、将来は二、三、〇〇〇円にしたい。病院に継続申請暫用紙を頼んだから一両日中に退院証明書を添えて持参する様指示する。

三十年十月十日妻来所 退院証書添付継続申請書提出。

概算内容 病名胃潰瘍、要治療期間自十月一日、至十一月三十日

費用概算 一六二点 二、〇二五円

三十年十月十一日 N嘱託医審査の結果承認答申あり。

三十年十月十二日 保護変更起案 世帯

主退院による基準額変更並びに妻の内職収入認定、冬期加算一一〇円計上により下記の通りとする。生活基準額六、〇七九円収入認定額六、六五〇円差引超過額五七一円により、○医療扶助単給(外)M医院、一部負担五七一円法残額扶助、自十月一日、至十月三十一日、継続。

○冬期加算一一〇円計上により十一月一日より一部負担四六一円、法残額扶助、自十一月一日至十一月三十日。

●決裁完了審判受理。

三十年十一月三十日 M医院よりJ.C. G病氣全快通院不要との連絡あり。家庭訪問す。妻不在、Gは元気で全快をよろこんでいた。よつて全快を確認、医療扶助を廃止す。

三十年一月三十日 医療扶助(外)M医院廃止。

追記 Y医師に対する一五、〇〇〇円の負債は妻の父からの送金にて支払い解決す。現在失業中、尙縁故者の援助に頼つて生活している状態である。

感想 人間が経済的な失敗や疾病によつて、或いは幼くして父母に死なれ、或いは老後の身を養うに足る貯えを持たないとい

う様な事によつて自立の能力を失つた場合に、これを収容しその保護を担当したものはこれまで家族制度に於ける家であつた。その意味において、家族制度は我が国古来の淳風美俗であるとされたのである。しかしこの事はこれを裏返せば、生存競争の落伍者に対して国家がその救いの手をさし延ばさないでこれを放置していたという証拠である。従つて又家族的な拘束から個人を解放してみても、国家的な社会保障制度の裏附が極めて薄い今日ではまだ親族団体、家族団体の擁護に頼らざるを得ず。そこから又自由と独立が失われている場合が多いのではなからうか。

来年度予算も新聞の伝える処によると実質上の減額となるよし、社会保障の後退が心配されるが、そうなるこの傾向はますます強くなるのではないか、という私の心配は思ひすこしであらうか。

×

×

×

×